

南米 [アルゼンチン]

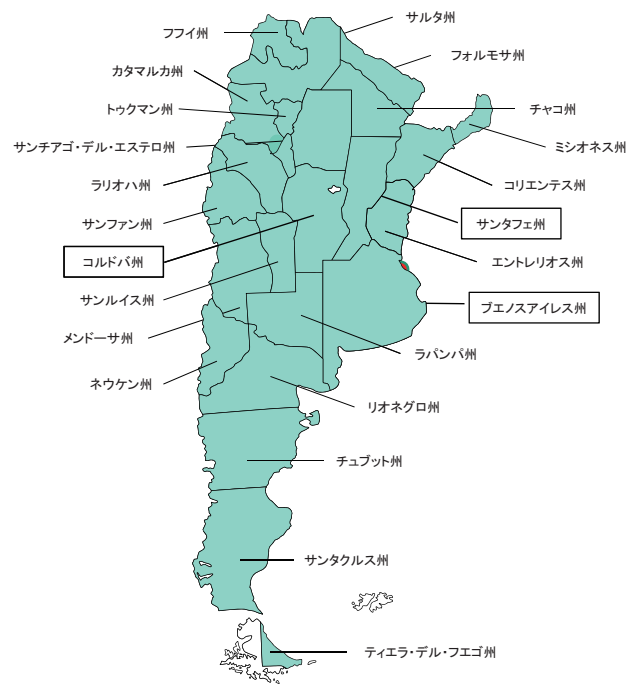


1 農・畜産業の概況

アルゼンチンでは、農業の国内産業に占める比率は国内総生産（GDP）の5.8%とそれほど大きくはないが、農産物輸出額は全輸出額の5割強を占め、農業は外貨獲得上、極めて重要な地位にある。2013年の農林水産品（1次産品、加工品を含む関税番号1～24の産品）の輸出額（FOB）は、440億9450万米ドル（前年比3.7%増）となった。最大輸出品は大豆油かす（関税番号：230400）であり、113億9300万米ドル（同8.0%増）と好調だった。

直近の2010年センサスによると、アルゼンチンの農業経営体28万戸の所有面積は1億5500万ヘクタールで、このうち農用地が4650万ヘクタール、1億850万ヘクタールが牧草地として利用されている。ブエノスアイレス州、コルドバ州、サンタフェ州を中心とするパンパ地域は、平たん、かつ肥沃な土地条件に加え、気候も温暖で降雨も見込めるため、農畜産物の主要産地となっている。

図1 アルゼンチンの地図（行政区分）



資料：機構作成

注：赤印は、ブエノスアイレス特別区。

2 畜産の動向

(1) 酪農・乳業

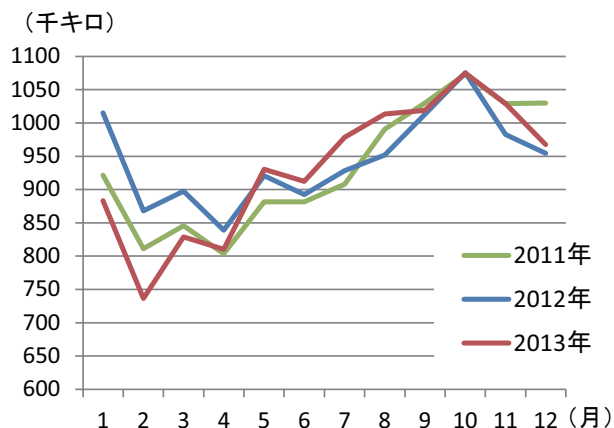
アルゼンチンの酪農は放牧主体であり、生乳生産はパンパ地域に集中している。主な生乳生産州はコルドバ州（全生産量の約4割）、次いでサンタフェ州（同3割）、ブエノスアイレス州（同2割強）である。乳牛の主要品種はホルスタイン種で、全飼養頭数の98%を占めるとされる。

①生乳の生産動向

アルゼンチン農牧漁業省（MINAGRI）によると、2013年の生乳生産量は、1118万3500キロリットル（前年比1.4%減）と前年から減少したものの、2008年以降5年連続して1000万キロリットルを上回った。

月別の生乳生産動向は、春の10月にもっとも生乳生産が盛んで、夏場の2～4月にかけて落ち込む傾向にある。近年は、トウモロコシなどの飼料穀物を補助的に給与する飼養管理も増加している。

図2 月別生乳生産量の推移



資料：MINAGRI

②牛乳・乳製品の需給動向

2013年の牛乳・乳製品の消費量（生乳換算）は、841万キロリットル（前年比2.8%減）と生乳生産量の75.2%を占め、1人当たり年間消費量は201.9リットルとなった。（表1）。

表1 牛乳・乳製品の需給の推移

（単位：千トン、千キロリットル、リットル）

区分／年	2009	2010	2011	2012	2013
生乳生産量	10,055	10,308	11,206	11,339	11,184
輸出量	307	317	450	429	431
輸入量	10	29	11	18	15
消費量	8,159	8,304	8,393	8,650	8,410
1人当たり年間消費量	203	205	205	201	

資料：MINAGRI、INDEC

注1：生乳生産量、消費量、1人当たり年間消費量は、生乳換算ベース。

注2：輸出量、輸入量は製品重量ベース。

アルゼンチン国家統計局（INDEC）によると、2013年の乳製品の輸出量は、43万546トン（前年比0.6%増、製品重量ベース）、輸出額では17億8432万米ドル（同12.2%増）となった。アルゼンチンは全粉乳輸出で世界第3位に位置するなど主要乳製品輸出国であり、2013年は為替相場が前年に比べ約2割米ドル・ペソ安で推移し、輸出に有利になったことで、輸出量は前年をわずかに上回った。品目別では、全粉乳に続き、業界が輸出に力を入れているホエイ、チーズの順に多くなっている（表2）。

2013年の輸出先国を見ると、伝統的な主要輸出先

（ベネズエラ、ブラジル、アルジェリア）に加え、中国向けが伸びており、ブラジル、ベネズエラ、中国、アルジェリアの上位4カ国で輸出量全体の63.8%を占めた。最大の輸出品目である全粉乳は、29.4%がベネズエラに輸出され、第2位の輸出品目であるホエイは、同45.5%が中国に輸出された。

表2 乳製品輸出量の推移

（単位：千トン）

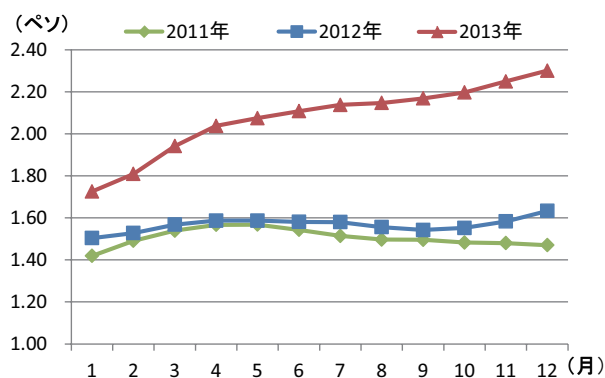
区分／年	2009	2010	2011	2012	2013
全粉乳	144	128	202	205	189
ホエイ	38	45	70	65	79
チーズ	48	45	64	61	32
脱脂粉乳	13	20	19	14	25
その他	64	79	96	85	105
合計	307	317	450	429	431

資料：INDEC

③牛乳・乳製品の価格動向

2013年の生産者乳価（乳業メーカーによる生乳1リットル当たりの平均生産者支払い価格）は、国内消費が堅調に推移したことに加え、堅調な乳製品の国際価格を反映して、1リットル当たり2.07ペソ（前年比32.4%高）となった（図3）。

図3 生産者乳価の推移



資料：MINAGRI

生産者乳価は、自由経済が導入された91年以降、乳業メーカーが独自の基準で決定してきたが、2011年に成分の特性や衛生基準に基づく支払い制度が創設された。これは乳業メーカーが生産者に支払う価格を安定させることを目的としており、乳業メーカーは、政府が毎月決定する基本乳価に、生産量、保存温度、たんぱく質、

細菌数などを考慮して価格の加減を行うものである。加えて、従来は乳価の20パーセントがメーカーの独自設定（プレミアム）部分とされたが、2013年8月に制度が改正され、独自設定部分は5パーセントとなり、生産者間での乳価の均一化が図られる形となった。

なお、乳製品小売価格についても乳価の上昇やインフレの進展を受け、上昇基調で推移している。

表3 乳製品小売価格の推移

(単位：ペソ)

区分/年	2009	2010	2011	2012	2013
ビニールパック牛乳 (1000ml)	2.0	3.0	3.6	4.3	5.0
全粉乳 (800g)	15.6	17.3	21.4	26.0	28.1
クリームチーズ (250g)	5.2	6.4	7.6	8.8	10.2
バター (200g)	3.9	4.1	6.5	7.3	7.9
ヨーグルト (200cc)	1.4	1.5	2.2	3.0	4.0

資料：サンタフェ州統計局
注：各年1月の平均価格。

(2) 肉牛・牛肉産業

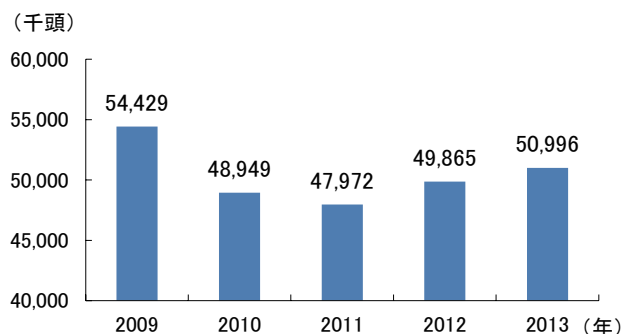
アルゼンチンの肉牛生産は、肥沃なパンパ地域を中心に、アンガス、ヘレフォードなどのヨーロッパ品種およびそれらの交雑種の放牧肥育が一般的である。

2007年5月に北パタゴニアB地域と呼ばれるリオネグロ州とネウケン州は、国際獣疫事務局（OIE）から新たな口蹄疫ワクチン不接種清浄地域のステータスを獲得した。また、BSEの清浄性については、無視できるリスクの国と評価されている。

①牛の飼養動向

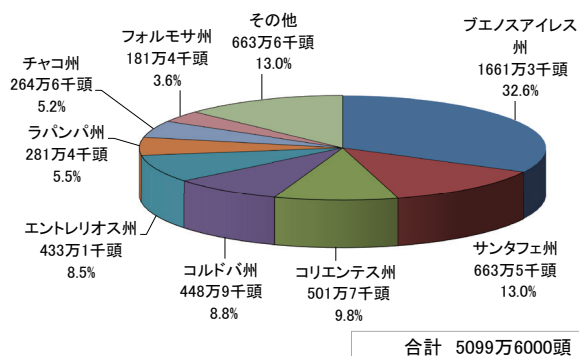
牛飼養頭数（乳用種を含む）は、2008年から2009年前半にかけての干ばつの影響による繁殖雌牛の淘汰や大豆の栽培面積拡大による放牧地の減少を受け、前年を下回って推移していたが、2012年以降、国内外の需要回復を受けた肉牛価格の上昇により生産者の増頭意欲が増したことで、2013年は5099万6397頭（前年比2.3%増）となった（図4）。州別では、ブエノスアイレス州（34%）、サンタフェ州（13%）、コリエンテス州（10%）の3州で全体の6割弱を占めている（図5）。

図4 牛飼養頭数の推移



資料：国家動植物衛生機構（SENASA）

図5 牛の州別飼養頭数（2013年）



資料：SENASA

②牛肉の需給動向

ア 生産

2013年のと畜頭数は、1262万5513頭（前年比10.5%増）となった。また、牛肉生産量（枝肉重量ベース）は、牛肉価格の上昇と牛群再構築を背景に、282万1608トン（同8.7%増）と増加に転じた。

表4 牛肉需給の推移

区分/年	2010	2010	2011	2012	2013
牛と畜頭数 (千頭)	16,053	11,863	11,883	11,429	12,625
生産量 (千トン)	3,376	2,626	2,497	2,596	2,822
輸出量 (千トン)	661	314	234	188	201
1人当たり消費量 (kg)	68	57	55	59	63
去勢牛生体価格 (ペソ/kg)	3.2	6.5	8.1	8.9	9.6

資料：MINAGRI

注：生産量、輸出量、1人当たり消費量は、枝肉重量ベース。

イ 輸出

2013年の牛肉輸出量（枝肉重量ベース）は、20万1292トン（前年比6.8%増）となった（表4）。一方、同年の輸出金額は、主要牛肉輸出国の生産が回復し、平均輸出価格が低下したことで10億4106万米ドル（同3.7%減）となった。

なお、牛肉輸出の最大の障害とされる輸出課徴金（輸出税）制度は、1994年に油糧種子に対して設けられたのが最初であり、2001年の同国のデフォルトの際、著しい外貨準備高不足に陥った政府が、輸出の主力農畜産品であるトウモロコシや牛肉なども対象に加えたものである。なお、現行の牛肉の税率は15%である。

また、EU向けのヒルトン枠（一定基準を満たすアルゼンチン産骨なし高級牛肉に対するEUの関税割当制度、対象年度は7月1日～翌年6月30日）は、ドイツ向けが全体の6割を占めた。なお、ヒルトン枠による年間配分数量は、2004/05年度以降2万8000トンであったが、2011/12年度は2万9375トンに、さら

に2012/13年度には3万トンに引き上げられしかし、輸出実績は7年連続で割当数量を満たしていない。

ウ 消費

2013年の1人当たり年間牛肉消費量は、63.09キログラム（前年比7.6%増）となった（表4）。増加の背景には、北米の干ばつに伴う国際的な飼料穀物価格の上昇を受け、アルゼンチン国内の鶏肉、豚肉価格が上昇したため、相対的に割安感があつた牛肉の消費が増加したことが挙げられる。

③価格動向

主要な家畜市場であるリニエルス家畜市場（ブエノスアイレス市）の2013年の肥育牛（去勢牛）価格は、生体1キログラム当たり9.6ペソ（前年比8.3%高）となった（表4）。サーロインの小売価格は、1キログラム当たり40.9ペソ（同9.1%高）となった。

3 飼料穀物

アルゼンチンのトウモロコシ生産量は、世界の生産量の約3%を占める。同国の牛肉生産が放牧中心であることなどから、国内需要は生産量の3割強にとどまる。このため、同国の2013/14年度（3月～翌2月）のトウモロコシ輸出量は世界貿易量の9.9%を占め、米国、ブラジル、ウクライナに次ぐ世界第4位となっている。しかし、トウモロコシ生産の収益は、大豆に比べ低いことに加え、輸出許可数量が設定されていることから、大豆との輪作作物として位置づけられている。

一方、大豆生産量は世界の生産量の約2割を占めており、大豆の国際市場に影響力を有している。トウモロコシと大豆は作付け時期が重なるため、それぞれの価格動向が作付面積に影響する。また、小麦は、大豆の裏作として生産される冬小麦が生産の大部分を占める。

①主要な政策

穀物輸出に関しては、主に輸出登録制度と輸出課徴金制度がある。

輸出登録制度は、国内への食料安定供給のため、国内の主要な食料価格上昇の抑制を目的に1976年に導入され、輸出許可数量や輸出許可書の有効期間などが定められている。トウモロコシと小麦については輸出許可数量が撤廃された時期もあったが、輸出が拡大する中で輸出許可数量が復活し、2013/14年度は1600万トンに設定された。

輸出課徴金制度は2002年3月、同年1月の通貨切り下げに伴う大幅な税収減を補完するため、通貨切り下げで恩恵を受ける主要な輸出農畜産物に対し設けられたものである。その後、経済回復に伴うインフレの進行で食料品価格が上昇したため、農産品の国内供給の安定を図ることを目的として、品目ごとに数次の税率変更が行

われ、2013年3月現在では、トウモロコシ20%、大豆35%、大豆かす32%となっている。

②飼料穀物の需給動向

MINAGRIによると、2013/14年度のトウモロコシ生産量は、3309万トン（前年度比3.0%増）となった。また、大豆については、5340万トン（同8.3%増）となった（表5）。

USDAでは、同年度のアルゼンチンの輸出量について、トウモロコシは米国の干ばつを受け大幅に拡大した前年度から減少して1285万トン（同45.2%減）、大豆は774万トン（同1.3%増）としている。品目別の主な輸出先国を見ると、トウモロコシはアルジェリアおよびエジプト、ソルガムは日本およびコロンビア、小麦はブラジル、大豆（粒）は中国、大豆油はインド、大豆油かすはインドネシアとなっている。

表5 主要穀物生産量の推移

区分／年度		2009/10	2010/11	2011/12	2012/13	2013/14
トウモロコシ	作付面積（千ha）	3,671	4,561	5,000	6,133	6,099
	収穫面積（千ha）	2,904	3,748	3,696	4,864	4,837
	生産量（千t）	22,663	23,800	21,197	32,119	33,087
	単収（t/ha）	7.80	6.35	5.74	6.60	6.84
大豆	作付面積（千ha）	18,344	18,902	18,671	20,036	19,782
	収穫面積（千ha）	18,131	18,765	17,577	19,419	19,253
	生産量（千t）	52,675	48,889	40,100	49,306	53,398
	単収（t/ha）	2.91	2.61	2.28	2.54	2.77
小麦	作付面積（千ha）	3,557	4,582	4,631	3,162	3,648
	収穫面積（千ha）	3,273	4,532	4,496	3,019	3,452
	生産量（千t）	9,023	15,876	14,501	8,025	9,188
	単収（t/ha）	2.76	3.50	3.23	2.66	2.66
ソルガム	作付面積（千ha）	1,033	1,233	1,266	1,158	997
	収穫面積（千ha）	755	1,013	914	890	788
	生産量（千t）	3,637	4,458	4,252	3,636	3,466
	単収（t/ha）	4.82	4.40	4.65	4.09	4.40

資料：MINAGRI

③価格動向

2013年の生産者販売価格は、トウモロコシが1トン当たり924.5ペソ（前年比29.3%高）、大豆が同1838.4ペソ（同11.3%高）、ソルガムが同842.0ペソ（同21.4%高）となった（表6）。

表6 主要穀物の生産者販売価格

（単位：ペソ／トン）

区分／年	2009	2010	2011	2012	2013
トウモロコシ	422.0	551.5	703.4	715.0	924.5
大豆	947.4	1028.4	1306.2	1652.4	1838.4
ソルガム	360.7	423.4	695.0	693.3	842.0

資料：MINAGRI



写真：ブエノスアイレス州のトウモロコシ収穫風景